Sony Institute of Higher Education SHOHOKU LIBRARY

湘北短期大学図書館 としょかんNEWS

vol.133
2020.1.28 発行

2019 年度の総まとめとして、図書館では 1 月 22 日に“図書館の授賞式”と称して、図書館と本にまつわる賞を発表、授与いたしました。副賞として湘北ポイントの付与と図書 1 点、DVD か CD1 点をリクエストできる権利をプレゼント！図書館は、来年度もみなさんに楽しんでもらえる企画を盛りだくさん用意してお待ちしています。ぜひ、図書館を楽しんでご活用ください。

読書ノート大賞 2019

読書ノートはあなたの大切な読書の記録です

2019 年度も読書ノートキャンペーン中に多くの参加があり、1,677 点の読書ノートが図書館に提出されました。文学、古典、実用書、絵本などさまざまな部門から以下の 8 点が大賞に選ばれました。来年度は読書ノートの用紙も手帳型にリニューアル予定です。引き続き、たくさん読書の記録をしていきましょう！

図書館の授賞式

●読書ノート大賞受賞者　2020.1.22

文学部門

「未来」
湊かなえ

泣いた。あまりにもつらくて何度も手が止まってしまった。子どもは無力。生傷に塩どころか思いきりナイフを突きさされているような気分の悪さ。不幸と悲劇しかないくらい。伏線回収がすばらしい。

終わり方もまさに未来があるかないか分からずじまいで、流石、湊かなえだと思った。二度と読みたくないくらい好き。

（19B/MN）

古典部門

「宇治拾遺物語」
伊東玉美

私が以前から好きだった、「ビギナーズ・クラッシックス」のシリーズ。

この中には「こぶとりじいさん」など昔話で聞いた物語のモデル話がいくつかあったが、細かく読んでみると結末が微妙に違ったり、登場人物の設定が変わっていたりして、それだけで物語のメッセージ性がガラリと変わり面白かった。

（19L/JM）

絵本部門

「こぐまちゃん おやすみ」
わかやまけん

・2 歳後半～
・睡眠前に読む本（夜）

8 時から寝るまでの流れがわかり、生活習慣が規則正しくなるような本だと思いました。

子どもがこぐまちゃんの気持ちになれる本。

8 時になってもテレビを消さない子や夜更かしをする子に読むと良い。

（19P/YM）

文学部門

「十二人の死にたい子どもたち」
冲方丁

誰にでも大なり小なり死にたいと思うことがあって、その気持ちに立ち向かう 12 人にとても勇気をもらいました。

死と同じように避けられないものが生。

悩んで考えて導いた 12 人の決断にはとても大きな強さを感じました。

（19L/RN）

文学部門

「家族八景」
筒井康隆

主人公がお手伝いさんとして様々な家庭を目の当たりにする。オムニバス形式で読みやすい。

汚らしさを全く気にしない大家族の話が気持ち悪くて印象に残っています。また読み返したいです。

（18B/HY）

絵本部門

「つまんない つまんない」
ヨシタケシンスケ

ヨシタケシンスケさんの絵は目が全てを語っている。

表情豊かな男の子と素朴な疑問や素晴らしい感性を伝えることができ、今の生活を楽しめそうです。

（19P/KT）

実用書部門

「10 代のための疲れた心がラクになる本」
長沼睦雄

まず、題名が気になって本を手に取ったのがきっかけです。

今の若者は自分の立場や関係などに敏感ですぐに周りに合わせてしまう、いろいろと考えさせられる本でした。

（19B/NM）

実用書部門

「女も男も生きやすい国、スウェーデン」
三瓶恵子

男女平等と聞いて女性の権利がきちんとするなどのイメージが強かった。

けれど、“ 全員が平等 ”というワードを読んで自分の考えがすでに偏っていたことに反省した。

（18P/YT）

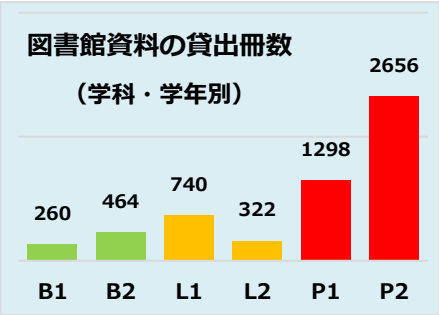
多読賞 2019

図書館の授賞式

2019 年度、図書館の本をたくさん借りた人ランキングを発表し、学生 18 名、教職員 6 名に賞状を授与しました

4 月から 12 月までに図書館資料の貸出を集計して、各学科学年の上位 3 名に賞が贈られました。学生トップは 84 冊、職員トップは 132 冊、教員トップは、なんと 226 冊です。そんな本好きのみなさんに本と DVD を選んでいただき、4 月に展示コーナーを設置しますので、お楽しみに！

●多読賞受賞者　2020.1.22



●2019/4/1～12/31 集計

【参考】2019 年 4 月から 12 月まで、学科学年別に図書館の資料貸出数を集計したものが右上のグラフです。あなたはどの棒グラフに入っていますか？来年は B 学科、L 学科の学生さんもたくさん利用してください。お待ちしています。

図書委員会に金剛賞！

第 21 回図書館総合展ポスターセッション

図書委員会は、毎年、図書館総合展のポスターセッションに出品しています

図書館総合展は、公共図書館、大学図書館などあらゆる図書館と図書館に関わる企業が年に一度、一堂に会する図書館業界の祭典です。そのポスターセッション部門に図書委員会は毎年、出展して湘北短期大学図書館の PR や図書委員会の活動を紹介しています。今年のタイトルは「おいでよ、湘北ライブラリー」。学生選書ツアーについて紹介し、100 点を超える出展の中から、見事、株式会社金剛より金剛賞をいただきました。副賞のくまもんのブックエンドは、図書館の選書ツアー展示コーナーに設置しています。図書委員会のみなさん、おめでとうございます。

●学長より賞状と副賞の授与　2020.1.22

連載　Relay Essay No.49　「 心に緑の種をまく 」　生活プロデュース学科　簗瀬千詠

年末の大掃除で捨てられずにいる絵本を見ると、幼い頃の娘が毎晩読み聞かせを待っていた姿が目に浮かびます。夕食後のひと時、娘の横に添い寝をしながらよく読んだのは、石井桃子さんの「べんけいとおとみさん」、林明子さんの「こんとあき」、さとうわきこさんの「おつかい」、ルース・スタイルス・ガネットさんの「エルマーとりゅう」、ドロシー・エドワーズさんの「きかんぼのちいさいいもうと」、オトフリート・プロイスラーさんの「大どろぼうホッツェンプロッツ」、エルサ・ベスコフさんの「ペレのあたらしいふく」、悲しいお話ですが大塚勇三さんの「スーホの白い馬」など。今でもタイトルを見ただけで、絵の持つあたたかい力や心に深く刻まれた物語がよみがえります。

「すぐれた絵本には、人間が人間であるために、いちばん大事な情緒と想像力と知恵が、いちばん単純な形でこめられています」児童書の翻訳で知られる渡辺茂男先生は著書「心に緑の種をまく」の中でこのように語っています。絵本で心に種をまいたとしても、すぐに芽が出て実るわけではありませんが、種は地中深く根を張り、いつか時が来れば幹を伸ばし、大空に向かって緑の葉を広げるということです。渡辺先生の言葉は、当時キャリアの重心を仕事から家庭に移していた私に、子育ても人生の時間をかけるに値する大仕事だという確信を与えてくれたように思います。

真剣に絵本に見入っていた娘も今や高校生。言葉が豊富で友達付き合いが上手。人の気持ちに寄り添える面白い子に育ちました。仕事中心の生活に戻った私の一番の相談相手です。あの時まいた種のいくつかは芽を出してくれたかな？しばし考えながら絵本の埃を拭い、再び本棚にしまいました。

「べんけいとおとみさん」
石井桃子 作，山脇百合子 絵